

# 推し ★ ゲン

Oshi-Gen

## 建築現場に土運船!? “壁”のない現場が 生み出す斬新な試み

今回の推しゲンは、人口増加が進む東京都中央区月島にあるタワーマンションの建設現場だ。工事が進むなかで判明した建設発生土の処理問題。解決のカギとなったのは部門間の壁を越えた見事な連携プレーだった。更に、現場で繰り広げられる多彩な取組みとその狙いにも注目する。

### 月島三丁目北地区第一種市街地 再開発事業

五洋建設株式会社

#### [今月の推し]

- ★ **部門の壁を越えて実現した  
発生土搬出**
- ★ **職員の壁を取り払う  
一体感を生む事務所づくり**



## 月島の新たなシンボルをつくる再開発

基盤目状の狭い路地や長屋が残る月島で、タワーマンシヨンの建設工事が鋭意進行中だ。二〇二二年十月に月島三丁目北地区の市街地再開発事業として着工した本工事は、中央区で増加する人口の居住機能向上に加え、広場整備や木造家屋密集地の解消により地域防災力の強化を目指すものだ。施工現場は「西仲通り商店街（月島もんじゃストリート）」に面するA街区、隅田川に面するB-1街区・B-2街区から構成される。敷地総面積約一・二haの八割以上を占めるA街区にて施工が進むのは、地下二階・地上五八階建て、高さ約一九九mに達するタワーマンシヨンド。七月取材時点で、躯体工事は一七階まで完了しており、完成すると、下町情緒が残るこの街の新たなランドマークとなる。

現場を指揮するのは五洋建設株式会社生島幸治総括所長。前例に捉われない方法で、現場の運営に取り組んでいる。「この現場クスを情報交換し、連携の強化を図っているという。生島所長は土木部門との対話が今回の現場での課題解決につながったと語る。「発生土の搬出方法について何か良いアイデアはないか、土木部門に相談したところ、現場に隣接する隅田川から船舶で搬出する方法を提案してくれ、更に、搬出された大量の発生土を受け入れる処理場探しも協力してくれました。建築部門の我々にはない発想でした。こうした部門の壁を越えた連携がなければ、今回のような方法は実現しなかったと思います」。

発生土の搬出手順は大まかに次の通りだ。隅田川に接するB-1街区に小型土運船を着けて土を載せた後、勝鬃橋<sup>かちどしはし</sup>を通過して東京湾まで運ぶ。そこからクレーン付き大型ガット船に土を移し替え、東北にある処理場まで運ぶという計画だ。「土運船は午前一隻、午後一隻を使用し、一日に約九〇〇立方mを搬出して、近場にある複数の処理場に約六〇〇立方mを搬出。こうして一日に最大一、五〇〇立



サイトPCヤードへのPC搬入状況



B-1街区で行われた土運船への発生土搬出の様子。自走式大型ベルトコンベアーを介してB-1街区敷地から土運船に積み込みを行った（提供：五洋建設株）



眼下に隅田川を望む現場

で直面した一番の課題が、掘削に伴う建設発生土の搬出です。工期が限られているなかで、ダンプ約一八、〇〇〇台分の大量の土を搬出しなければなりません。周辺への影響も考慮すると従来の方法は現実的ではなく、知恵をしぼることになりました」。想定された建設発生土は約八万立方m、それ以外の建設副産物も含めると約一〇万立方m。最低でも一日一、二〇〇立方mを搬出しないと間に合わない計算になる。更に、それを受け入れる処理場を探す必要もあった。

### 土木部門が助け舟 連携プレーで土を搬出

大量の発生土をどのように搬出し、どこへ運ぶのか。課題解決への糸口となったのが社内の土木部門とのやり取りだった。

部門が異なると、互いにコミュニケーションを取る機会がなかなか訪れないもの。しかし、五洋建設は部門間の距離が近く、普段から土木・建築それぞれの最新トピッ

方がの搬出量を確保する目途が立ちました」。土運船を使用して現場から土砂を搬出するのは生島所長にとって初の経験。「不安もありましたが、当社には海上運搬のノウハウが豊富にあります。土木部門のバックアップは非常に心強かったですね」。

河川と船舶を活用した発生土搬出を採用するため、生島所長は東京都の担当者とも協議を重ねた。「都の担当者も『これまでに前例がない事案です』と仰っていて、そもそも対応できる担当窓口もありませんでした。そこで、ダンプ使用時と比較したCO<sub>2</sub>削減量や近隣への騒音、振動の軽減などの効果をアピールし、半年間の協議の末にようやく都からの了承を得ました」。

こうして、発生土の搬出計画は無事に漕ぎ出した。海上を運搬することでダンプによる近隣への影響を軽減することはもちろん、積出港までのCO<sub>2</sub>排出量も四一％削減。部門の壁を越えた風通しの良い関係性が地域と地球環境に優しい施工を実現させたのだった。



## コミュニケーションが生まれる事務所

もの静かな印象ながら、「とりあえず、やってみるのが私のポリシー」と語る生島所長。言葉通り、多様な取組みを展開している。コミュニケーションを生む事務所づくりもその一つだ。

事務所を見渡してみると壁がない。座席から立ち上げればお互いの位置が一目でわかる。「周囲のメンバーにすぐに話しかけることができる事務所を目指しました。本当はワンフロアに全員の席を収めたかったのですが、スペースの都合で施工関連部門のみが一つ上の階にあります。もっと広ければ全部署が収まり、より理想に近いレイアウトになるはずだったので「少し残念そうに語る生島所長。現場幹部が集まるエリアの中心には、会議用の大きなテーブルを配置。「例えば、若手職員が打ち合わせをしている時に、自席で作業しながらでもその内容を把握できるので、困っている時などにサポートしやすいですよ」。

ら、技術研究所や建築本部と連携しながら様々な取組みを探索し、一つひとつ実行してきました。そして、それらを発信するべく現場見学会を多数開催し、様々な関係者に来所していただいています」。また、全国の支社から若手を招集し、都市型・大型現場ならではの施工を経験させている。滞在中に多様な施策を経験し、各支社に戻った若手社員から更に取組みが広がることへの期待感があるという。自らの現場にとどまらず全社への波及効果をも見据える生島所長。改めてその名刺を拝見すると、「総括所長」と並んで「執行役員」の文字がある。この二つの肩書は、社内からの厚い信頼の表れだろう。「現場は折り返しを迎えましたが、まだまだ考えていることはたくさんあります。無事に竣工を迎える日まで新たな挑戦を続け、全社に還元していきたいですね」。

果たして今後、どのような取組みが月島から発信されるのだろうか。所長の頭のなかでは、既に次の一手が動き出しているのかもしれない。



### 【工事概要】

発注者 月島三丁目北地区市街地再開発組合  
 工事場所 東京都中央区月島三丁目  
 工期 2022年10月20日～2026年6月30日  
 工事内容 **A街区**：敷地面積10,076.42㎡、建築面積6,743.49㎡、延床面積144,276.80㎡、鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、地上58階 地下2階建て、高さ197.65m(最高高さ199.45m)、共同住宅1285戸・商業・公益的施設他  
**B-1街区**：敷地面積1,054.00㎡、建築面積625.73㎡、延床面積1,928.00㎡、鉄筋コンクリート造、地上6階建て、高さ24.80m(最高高さ27.40m)、障害者グループホーム他  
**B-2街区**：敷地面積882.14㎡、建築面積552.94㎡、延床面積3,245.33㎡、鉄筋コンクリート造、地上7階建て、高さ25.37m(最高高さ27.12m)、共同住宅56戸



事務所内観。ほぼすべての部署がワンフロアに集約されている。五洋建設で5件目のZEB認証を取得した環境配慮型の現場事務所でもある

躯体工事が完了した低層階から配管などの設備工事が順次進む

PC梁は仕口部分のみサイトPCとして製造し、設置階に揚重される

## ゲンバの推し☆を教えてください

### 迅速な情報共有を生み出すデジタル化

現場で力を入れている取組みの一つがDXです。事務所の最上階に設置された360度カメラは、現場の状況を事務所内のモニターやPCタブレットで確認できます。タブレット上で操作して自分が見たい場所にカメラを向けることも可能です。その他にもデジタル化やペーパーレス化など、様々な取組みに積極的です。



(提供：五洋建設株)



五洋建設株式会社 東京建築支店  
 月島三丁目北地区第一種市街地再開発計画工事事務所  
 執行役員副支店長(兼)総括所長  
**生島 幸治** Kouji Ikushima

## 月島から発信する様々なアイデア

今回の現場運営において、生島所長が掲げたコンセプトは「月島から全国へ」。「施工が始まる前か

事務所の奥にある休憩スペースに目を向けると、その小上がりに「なんと畳が敷いてある。「もんじゃ焼きの街である月島をイメージしました。職員たちの交流の場としてだけではなく、来訪者に少しでも喜んでもらえたらと思っています」と、遊び心を取り入れることも忘れない。



事務所内の休憩スペース。小上がりには畳が敷かれ、壁掛けのディスプレイには、現場の状況やCO<sub>2</sub>削減量などが表示される